（第２号様式）

令和５年４月 28 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立相模原弥栄高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①４学科の新教育課程を適切に進行管理するとともに、各学科策定の教育課程を円滑に推進する。 ②国際科・理数科を引き継ぐ普通科として外国語教育や理数教育を重視した教育を行うとともに、専門学科との融合による生徒の学力向上を図る。 ③外国につながる生徒の支援体制を充実させる。	①新教育課程の展開に向け、全学科において「協働的な学び」と「個別最適な学び」を充実させ、ＩＣＴの利活用等、新しい時代に必要な資質・能力の育成に向けた授業の最適化を図る。 ②STEAM 教育研究推進校としての取組に基づき、探究活動の深化を図り、全学科の生徒の能力を伸長させる教育を推進する。 ③外国につながりのある生徒をはじめとした多様な生徒に対する組織的な支援の充実を図る。	①授業研究期間を設け、教科を越えて情報や課題を共有し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。また、１人１台端末やＩＣＴの効果的な利活用の方法を共有し、実践につなげる。 ②教科横断的な学習プログラムの研究開発を行う。 ②専門学科の専門科目や普通科の「総合的な探究の時間」等を含めた教科・科目において探究的な学びを推進し、課題発見及び根拠を持って解決することを通して生徒の自己実現を目指す。 ②個別最適な学びと協働的な学びを実現する。 ③多文化共生教育推進チームを中心に、情報共有や研修を行うとともに、多文化教育コーディネーターとの連携・協力により放課後日本語教室等の必要な支援を企画・運営する。 ③CEMLA スクール主管校として、運営協議会参加各校と連携しながらスクールの活性化に努める。	①生徒による授業評価の項目２（対話的な学び）における「４かなり当てはまる」の回答率が 40％以上となったか。 ②生徒による授業評価の項目３（深い学び）、項目６（項目３と関連の深い項目）、項目７（より高次な学びの構築）における肯定的な回答の割合が、前年度より向上したか。 ②英語の外部検定試験の合格による単位認定数を増やすことができたか。 ③各年次および学校全体での情報共有を前後期各２回以上実施することができたか。 ③多文化共生教育推進チームで業務分担し、多文化教育コーディネーターと協働して必要な支援を円滑かつ組織的に進めることができたか。 ③CEMLA スクール主管校として、CEMLA スクールの活性化に取り組むことができたか。					
2	生徒指導・ 支援	①特別活動や部活動の一層の活性化めざし、豊かな人間性と社会性の涵養を図る。 ②生徒一人ひとりに対してきめ細やかな支援や指導により、心身の健全な育成をめざす。	①探究的な視点を持った「生徒を主語にした」活動の充実を支援し、豊かな人間性と社会性・規範意識を備えた生徒を育成する。 ②日常的な交通安全指導を含め、地域とともにある交通安全教育をさらに推進し、生徒の安心・安全な学校生活を支援する。 ②機動性の高い教育相談体制の充実を図り、事案の早期発見と早期対応を目指す。	①生徒が主体となった各行事づくりのために生徒実行委員会を充実させ、生徒自らが企画･運営できる体制を構築し支援をする。特に「SAGM Synergy」については学科間交流を深める行事としてさらに確立･発展させるとともに、検証にも努める。 ①普通科生徒も加入にした学科融合型の部活動として高加入率を維持し、生徒が主体となった活動により実績をあげる。 ②教育相談体制をさらに充実させる。 ②スケアードストレイト方式の交通安全教室の実施、相模原地区交通安全高校生ＰＴＡ大会の幹事校としての活動を充実させる。	①生徒が主体となって探究的な視点を持った行事づくりの充実が図れたか。また、学科融合型の行事により、他者理解の精神を育み相乗効果として生徒一人ひとりの見方・考え方を広げられたか。 ①部活動加入率 85％以上が維持できているか。また、生徒が主体となった活動の中で、各部の実績はあげられたか。部活動ドリーム大賞等は受賞できたか。 ②教育相談担当を中心に年次、担任、家庭、ＳＣ、ＳＳＷ、ケース会議等を通して緊密な情報共有に努め、早期発見・早期対応を目標とした組織的な教育相談体制の充実を図れたか。 ②スケアードストレイト方式の交通安全教室や、相模原地区交通安全高校生ＰＴＡ大会の幹事校としての活動を通して交通安全に関する啓発活動を充実することができたか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①各学科の特色ある教育を基に、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、国公立・難関私立大学への進学をめざす。 ②特に専門学科においては、専門課程にふさわしいキャリア教育により支援していく。	①高大接続改革に係る最新の進路情報を提供し、組織的できめ細かい指導を通して生徒の進路実現を図る。 ②長期休業等における補習・講習の質的・量的な充実に努める。 ②STEAM 教育の視点を持った探究活動に取り組むとともに、キャリアパスポートの活用を図る。	①「進路ガイドブック」「進路だより」及び各種説明会等を通じて、生徒、保護者への情報提供を行う。 ②長期休業等における補習・講習を充実させるべく各教科に呼びかける。 ②STEAM 教育との関連で作成された本校でのキャリアパスポート「やえいノート」の活用を進める。	①進路ガイドブック等へ令和７年度大学入試の情報を盛り込み、最新の情報提供を行うことができたか。 ②補習・講習の実施講座数と講座の内容が、生徒のニーズに合った充分なものとなったか。 ②「やえいノート」の活用が効果的なものとなり、生徒自身の学びを可視化することで生徒の１年次「自己発見」、２年次「自己探究」、３年次「自己実現」を図ることができたか。					
4	地域等との協働	①地域の小・中学校・特別支援学校・大学や教育機関等とより一層の連携を図る。 ②地域との協働的活動を推進し、生徒全体の地域貢献意識の向上を図り、地域に愛され、信頼される学校づくりを行う。	①地域の教育力の活用を図り、地域の中で学ぶ生徒の自己有用感を育む。また、地域の学校等との連携を深め、開かれた学校づくりをさらに推進する。 ②本校の教育活動の周知のため、学校ホームページの充実を図り、本校の魅力と特色についてアピールする。また、学校行事等の中学生や保護者への情報発信など、広報活動の充実を図る。	①各部活動の近隣との連携を充実させるために、連携を強化し中学生が本校の教育活動に触れる機会を増やす。 ①地域の公民館や特別支援学校、美術大学等との連携を深め、地域に貢献する活動に取り組む。 ②本校の教育活動の周知を行い、本校の魅力と特色をアピールするためにホームページの充実を図り、迅速な記事作成をできるようにする。そのために、職員へのサポートと情報提供を行える体制を整える。 ②学校紹介の機会をとらえて積極的に広報活動を行う。	①部活動等を通して近隣の小・中学校との連携を深め、特に中学生の本校での教育活動の体験を実施することができたか。 ①地域の公民館や特別支援学校、美術大学等との連携により地域貢献活動に取り組み、生徒の自己有用感を醸成することができたか。 ②週単位でホームページの更新を行い、本校の魅力と特色を発信することができたか。 ②メディア等による学校紹介の機会をとらえ、学校広報活動を積極的に展開することができたか。					
5	学校管理 学校運営	①緊急時に対応できる防災教育・安全教育を学校全体で推進する。 ②効率的な業務の整備により事故・不祥事防止を図る。 ③長時間勤務を是正したワーク・ライフ・バランスの実現を通して教職員自らの人間性や創造性を高め、資質向上に努める。	①防災の観点から施設・設備の整備を図るとともに校内美化を推進する。また、本校周辺の防災上の特徴をとらえ、実践的な防災対策を進める。 ②不祥事ゼロプログラムに基づいた不祥事防止研修を実施するとともに協働意識の醸成を図り、事故の未然防止に努める。 ③教職員の働き方改革をさらに推進し、組織的な学校運営と校務の効率化を更に進め、長時間勤務を是正する。	①グループ間の連携により、危機管理マニュアルを本校の実情に即して改訂する。 ①災害時に実効性のある避難ができるよう防災訓練の方法を検討する。 ①老朽物品の更新および不要物品の廃棄を行い、校内の美化を徹底する。 ②計画的な研修を実施し、不祥事防止会議を活用して成績処理等における不祥事の防止を徹底する。また、帰属意識を高めるよう同僚性のある風通しの良い職場づくりに取り組む。 ③タイムマネジメントの視点と目指すべき教職員像の観点から教職員の働き方改革を推進する。	①危機管理マニュアルを改訂するとともに、職員への周知を図ることができたか。 ①生徒及び教職員の防災や安全に対する意識を高める防災訓練を計画・実施することができたか。 ①規定の手続きに従って確実に不要物品の廃棄を行い、校内美化を徹底することができたか。 ①校内の教育環境整備として無線 LAN アクセスポイントを整備することができたか。 ②より効果の高い職員研修を実施し、不祥事の未然防止に取り組むことができたか。 ③教職員の働き方改革をさらに推進し、長時間労働者の割合が前年度と比較して減少させることができたか。					